

## 「全鍍連」 2025年 7月号 若者から一言

神奈川県メッキ工業組合

青年部会長 真木 洋平 (さくらGS(株) 代表取締役)

「業界のみんなと繋がることの大切さ」

全国の鍍金業界の方々、こんにちは。神奈川県青年部の会長を務めさせて頂いているさくらGSの真木と申します。僭越ながら執筆のご依頼を頂き、どんなことを書くべきか迷いましたが、青年部会長を引き受けるきっかけになった思いを書くことがテーマとしてふさわしいと思い、書かせて頂きます。

私は、昭和生まれの世代としては珍しい一人っ子でした。そんな生活環境とそもそもの特性もあったかと思いますが、「なんでも一人でやる」「一人が苦痛じゃない」「集団行動が苦手で、思いを言葉にするのが下手」という特性がありました。そんな中二病的な自分ですが、それでも学生時代まではそれなりに楽しくやっていくことができたかと思えます。

しかし、人生の転機が生まれ、会社の後継者として社会に出てからはそれでは通用しません。そもそも一人でやれることなんてほぼ何もありませんし、社長という立場になるからには、思いを口にして自ら能動的に仲間に伝えなければ仲間は自分を理解してくれません。友達のようになんとなく理解してくれるとか家族のように口にするまで待つてくれるということがないからです。ですから、一生懸命に相手の気持ちや考えを想像しながら、自分の思いを丁寧に伝える努力をしました。もちろん数えきれない失敗をしました。

組合行事に参加するようになった時も苦労しました。先代の考えが「組合なんて意味ない」というお考えから、長らく会社としての組合活動に距離があった当社。そんな私の参加に対し、歓迎的な視線と「なんだあいつ」というよそ者、Stranger への視線。営業マン的な特性を持った方なら会合の宴席などで全員にお酌をして「よろしくお願いたします」とかするのでしょうか、私の特性上、それは難しい。致命的な状況でしたが、歓迎的な方のフォローもあり、少しずつ大勢の方たちと打ち解けることができるようになりました。結果、今では関東近郊だけでなく全国単位での鍍金業界の方々との情報交換、交流を持てることとなり、非常に組合活動に対して感謝しております。そして、改めて感じました、知ってもらうことの大事さ、繋がり  
の大事さを。ですから、自分も何かしら頂くばかりでなく、貢献をしたいと思い、青年部の会長を引き受けることとなりました。

やって良かったなー。活動の計画や実行の中で、ただの知り合いから更に関係性を深められた方もいますし、昨年、新たに全国青年部も創立され、活動が広がる可能性も感じました。写真はその際、大阪で決起集会が行われた際の神奈川県青年部メンバーでの集合写真です。あ、あと自分の写真は趣味のピアノの発表会での写真です、真面目に映っている写真がなく、これとしました。巨匠っぽい（笑

これからも業界全体で繋がりを持てるための組合活動でありますように。

